



諸道髓耳世間猿

一

遠
1261
1



免後海も... 担入指さし... 母
の... は尻... の... 戯...
物... 事... 虫...
見... 人... 伽... 中... 八

昭和三年

浪毒

いぬ乃と

相律を席



諸道馳身世間猿

一之卷

目録



一回 要害と面よあはれ所人の博廓

先祖の武常の高代...
浪人乃等... 指...
二一天地の五百石

二回

貧乏と神ともの守裏信家

一人ひとと多紙いけ物小五

とえや好く二百蛇り季

移し出と女房の物神

三回

又盲と者けりれ家茂

我目利して賞る具を

心りとちるの凌雲乃橋

浪居の美足は秋八曙の系忌

① 要害と間とあとの所人の城廓

持世治ま統治代のらひ強はるる一陰の鞘一陰はのそく古
道具屋一穿世のわん然とそも久くありわらり今百
此よまけそも海いつと一僕は也とお侍がその陰で海さり
乃と此の殿の由段にまらり。今世の城より美極は枝ね
して御馬のされで流流り二面今年の日十日と暴よ
く一陰を紙を紙と賣拂てあつたもの感状に珍ん
と七早檀一風と新也。先代治の備後一所人が張りけそも
梯門一理と接しての信ある人。そも此の忠武候諸款兵助の
風といのあり。若し所人百姓。そも我病と励しとんそ

晴の天ね先祖の勤みあで我の後の事もこころをいれし子孫のありて
是れより男も女も今私個人の身より先祖の家業よくて栄州も出
来ませぬ海へも眼も足も後足も存せしは命を後でござらぬと
いふ事には二十帝けいからね却てそれいふ事いふ事家業の
業程あて所人の所化しむじも又先祖の小石初まかあとも一旦
大國へ行くにせしむ程おとりの勤み及倍倍して強けれかど
名は一天下にいふ事ありて軍師改よるあり居宅と去来建垂しゆと
ぐあの世えと世境あきれて下こそあれが勤み及の流義の縄をりてお
さる大小路通と大よといふことおるお店より死て中より放しお
らるる為人地帯といふまふよ辰横町ハ搦手海成あつた物とせら
しとら海板の板くつりいふことおまうこそお外産の産物と

ともすあらうり計略とちり業しんじとや人へ渡さんるは
まて大目雇どもいれ他いしとせぬわ神文とせまうこと地帯
がまゝ罵し勤みとちりてそれとるは念長と平の所代
よらばや要害とちりて色もあつたいこととせぬ今日の室法ハ
の勤みのけり業程のちりて色もあつたいこととせぬ今日の室法ハ
より智恵もあつたおとすものよあわがおとく業までいふ
まの山とちりて海成埋むる十里づつちも園地ありて化のい
程あつたこととせぬ割がりますこととせぬ子のあつたこととせぬ
世への後人のさびの程を念よりいこととせぬ向後の家業はあて
業もよきとせんこととせぬ肝要との事いふこととせぬ板屋個人も
ぬ。高貴のけりいふ代たがの事すは拙者けいとせぬ世も

仲又もい一様でおまじり。約半はをす。若し心おりのあき
政系一尺八寸。袖は令一付。付て侍。かぬのそ肥。お向。白状。つて
さきまを。徳の指。す所。かぬ。なり。重。八分。い。て。海。中。さ。ぬ。と
あき。侍。り。も。海。す。れ。ば。ら。も。も。海。用。ら。う。ら。な。も。を。て。そ。え。の。出。先
祖。幼。女。左。右。半。男。を。成。さ。で。い。あ。る。こ。も。元。と。思。を。指。ハ。三。代。乃。太
后。鳴。呼。と。嘆。して。ま。後。知。い。も。こ。ら。う。ら。相。助。の。義。学。よ。ま。ま。一
て。万。の。榮。め。あ。る。男。と。思。は。せ。若。あ。つ。て。去。西。國。の。は。家。へ。卒。人。枝。村
と。く。幼。定。方。と。あ。て。令。及。人。の。あ。り。付。お。ま。の。日。願。中。月。大。小。立。流。上。伏
鳥。う。若。く。お。小。而。千。布。が。方。榮。め。ん。て。對。面。一。松。若。若。若。若。武。為
一。海。と。い。つ。め。味。つ。あ。ま。か。じ。か。の。一。く。お。世。は。う。こ。り。そ。ら。よ。も
是。な。て。は。美。分。中。い。お。く。向。後。何。人。お。舞。の。舞。術。と。勅。て。成。た。と。お。わ
ち。ま。り。う。ら。剛。要。で。ご。ご。ご。お。ま。よ。い。ま。つ。の。海。い。あ。う。ら。う。才。志。中。あ。ん。せ
向。と。海。と。い。つ。め。け。く。と。千。布。舞。で。あ。ら。い。の。物。と。い。代。大。尺。さ。う。母。
と。お。ぬ。ま。大。名。が。あ。る。よ。の。と。わ。あ。ん。侍。り。も。福。と。ま。う。あ。う。わ。ま。し。も
と。う。何。大。名。の。知。り。で。お。ま。う。の。そ。う。な。り。も。を。な。り。つ。て。い。く。と。ま。ま
一。眼。と。い。つ。め。て。屋。敷。意。り。あ。く。侍。目。さ。う。も。我。師。の。波。流。へ。お。て
ま。ま。針。で。釣。り。も。ま。し。針。一。魚。の。う。り。時。と。同。の。時。大。名。が。あ。へ
よ。い。ま。あ。れ。お。ん。ご。い。け。い。て。つ。つ。ら。う。ら。も。代。た。が。あ。て。う。つ。や。唐。靴
の。賞。と。い。換。よ。ご。も。い。山。本。幼。女。が。鏡。法。も。士。卒。の。め。一。唐。博。と。今。さ
ら。着。が。う。ら。む。し。こ。バ。一。袴。ら。う。ら。一。打。あ。ま。り。て。は。く。物。も。あ。く。一。家。二。門。へ。も
面。月。あ。く。婿。と。ま。ま。と。大。坂。の。乳。母。が。方。た。ら。り。や。う。く。侍。り。一。家。二。門。へ。も
あ。だ。う。の。細。え。な。と。い。小。月。お。の。こ。げ。妻。も。も。口。が。お。も。こ。う。て。い。つ。も





下りの世一のあゝ男ぞう。お経の志気若相境もくわくあ
くせり。もろ七十はらたて。隠居のり。法新と名は文愚
とゆめ。七三帯い。高と。ゆきて。我代た。た。都よりの
た。福学。隆。河海。二派。の。悟。強。眼。法。を。免。り。り。白。紙
と。今。傍。米。市場。の。棋。子。と。り。ま。て。他。歴。生。り。子。信。業。の。付。三
子。常。念。を。く。あ。一。由。ね。あ。く。を。法。の。一。僕。思。ふ。婦。が。着。う。ん。一。の
破。り。と。も。唱。と。呼。合。三。十。梅。と。お。け。く。を。ま。季。亮。お。な。ま。る。人
中。戸。の。密。扱。と。お。て。放。棄。く。と。漢。法。と。り。に。り。付。合。が。廣。府。に。は
けて。を。改。す。り。愛。志。玉。所。の。流。き。と。ゆ。め。わ。う。雷。の。約。束。去。の。夜
一。と。願。ふ。あ。の。お。妙。あ。り。て。生。く。万。室。を。書。く。と。も。さ。り。て。目
利。が。あ。り。す。ま。ま。上。所。辺。の。書。物。を。南。亭。と。い。ふ。お。妙。の。若。門。口。の。た
の。ね。程。を。掛。物。第。と。お。す。ま。て。日。形。は。る。の。勢。舞。や。ま。せ。ね。は。横
お。の。唐。字。と。こ。さ。り。ゆ。す。う。げ。か。の。刀。乃。の。は。及。今。す。れ。を。名。取。い。お
ゆ。一。指。も。あ。く。あ。ま。す。を。ね。と。お。く。と。刀。守。れ。た。七。名。一。目。乃。乃。の
せ。ら。あ。い。ぢ。ち。も。は。や。う。な。古。字。法。者。り。く。と。あ。ん。ち。と。い。ふ。け。と
が。い。お。是。と。魏。の。明。帝。の。策。入。一。凌。雲。臺。の。歌。也。は。横。と。築。く
時。あ。ま。り。の。歌。と。け。け。け。お。け。あ。い。ふ。多。字。法。書。の。章。法。と。い。ふ。法。也。法
藤。藤。と。く。約。と。せ。せ。れ。け。け。地。り。る。乃。の。井。奈。文。の。り。一。章。他
お。ま。て。白。紙。と。あ。り。て。あ。る。が。を。歌。の。法。の。り。と。刀。乃。の。執。と。唐。と
と。唐。乃。の。後。乃。の。一。唐。字。と。い。ふ。書。林。の。り。す。一。法。文。書。と。ま
り。ゆ。て。是。を。あ。り。相。く。あ。ま。す。を。ね。ぢ。ま。く。と。物。月。と。け。け。た。と。う
ま。ん。と。け。け。の。海。い。と。是。と。魏。と。い。ふ。あ。の。人。の。お。い。の。で。こ。さ。り。ゆ。す

一ぬ。漢居大愚いせす。漢中地をもちて。後年一七をのび
て。付づく。はる。國利自勝より。大なる。金銀。は。の。を。の。く。人。は。突
つ。て。大。能。の。名。は。は。り。し。の。が。し。高。人。の。た。と。り。守。也。た。る。の。の
あり。所。人。と。は。其。等。と。そ。外。の。の。り。と。つ。と。き。と。あ。り。て。家。業。と。つ。て
也。其。の。國。利。い。と。ま。う。く。は。と。度。成。ら。つ。て。あ。り。つ。け。漢。居。人。と。え
ら。も。ね。ぢ。も。つ。は。は。見。地。つ。る。の。中。も。と。も。は。海。上。の
船。心。中。り。て。と。漢。中。一。の。の。を。ま。り。の。

一之巻終

Handwritten notes on the top flap of the left page, including the word "Handwritten" and other illegible cursive text.

Main body of handwritten notes on the left page, containing several lines of cursive text, possibly including the word "Handwritten" and other illegible words.

Handwritten initials or a signature at the bottom right of the right page.

